

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	九州フィナンシャルグループ本社ビル	階数	地上11F	
建設地	熊本県熊本市	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	600 人	
気候区分	4地域	年間使用時間	720 時間/年	
建物用途	事務所、集会所、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2018年12月22日	
敷地面積	3,011 m ²	作成者	苗村武志	
建築面積	2,312 m ²	確認日	2018年12月23日	
延床面積	16,512 m ²	確認者	小林一文	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

81

27

3.0

1.5

BEE=1.0

100

50

0

0

50

100

S

A

B⁺

B⁻

C

環境品質 Q

環境負荷 L

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

☆☆☆☆

☆☆☆

☆☆

☆

BEE = 3.0

■ BEE (環境効率) =

Q (環境品質)

L (環境負荷)

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

76%

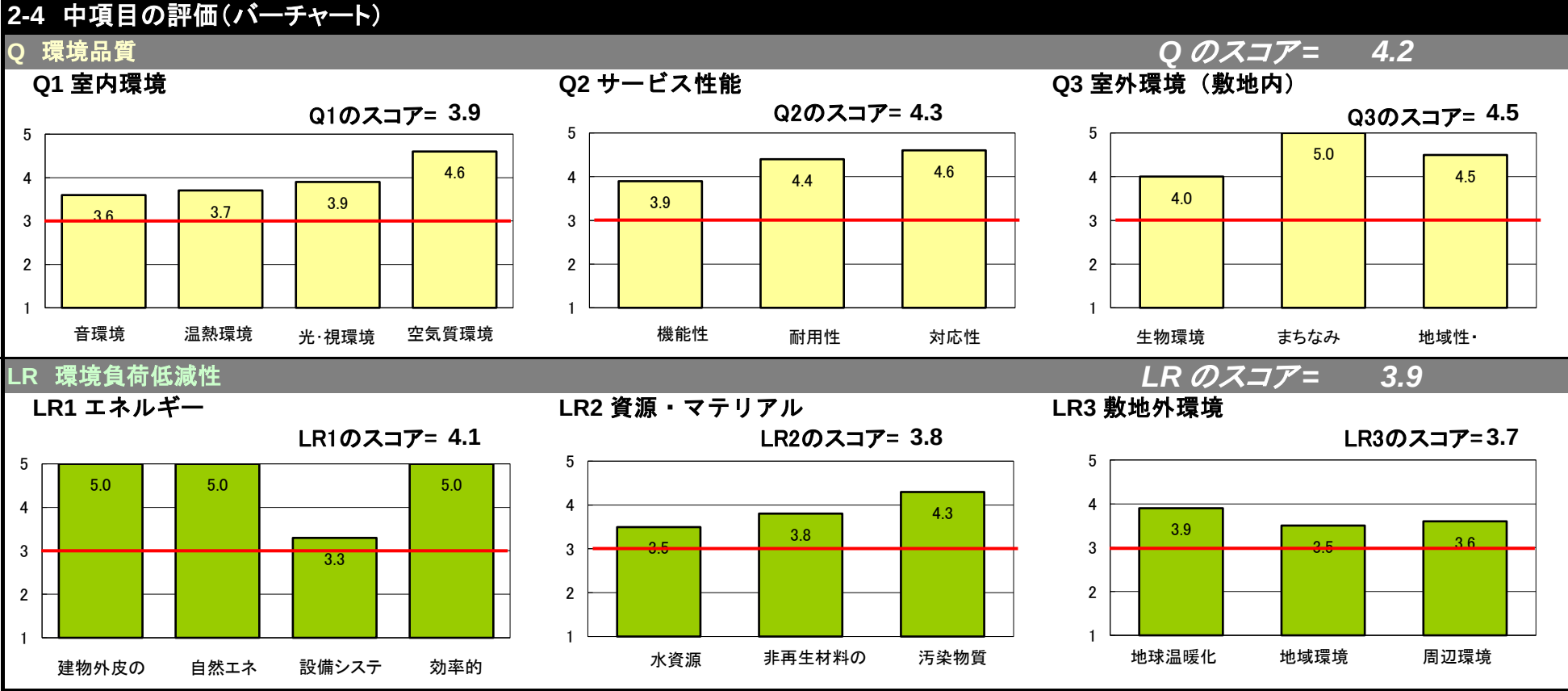
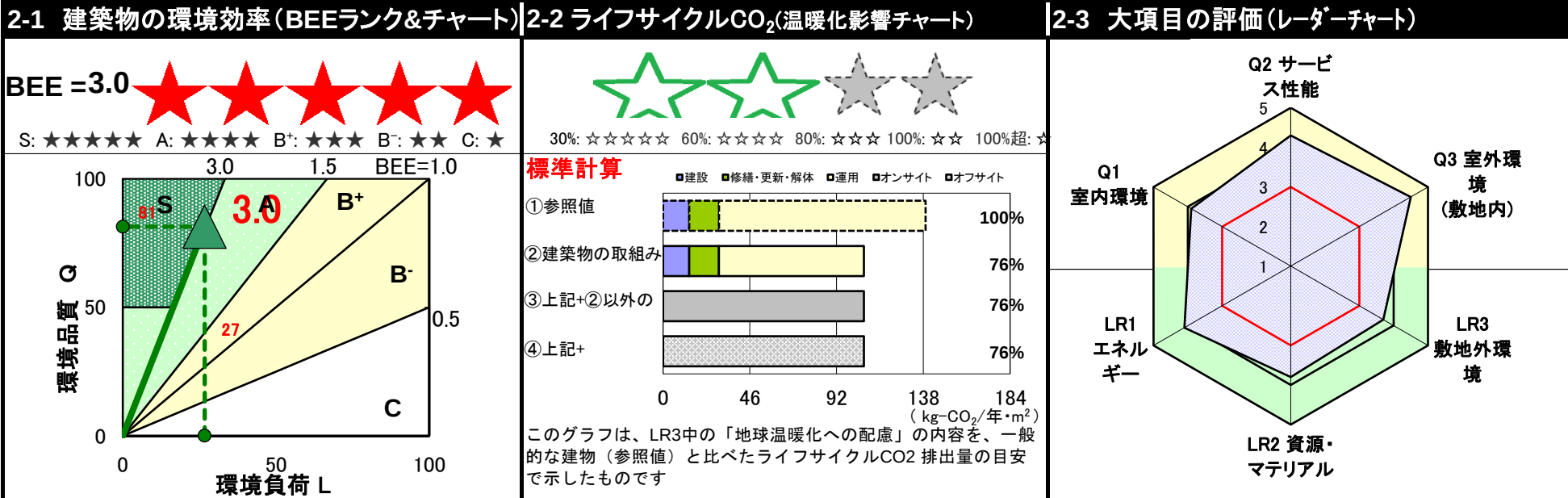
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
   		97												
	評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	107.2	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上	    	80点以上100点未満	   	60点以上80点未満	  	40点以上60点未満	 	40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上	    													
80点以上100点未満	   													
60点以上80点未満	  													
40点以上60点未満	 													
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	86.2													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	85.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	98.2													
※評価点は、100点以上が推奨です。														

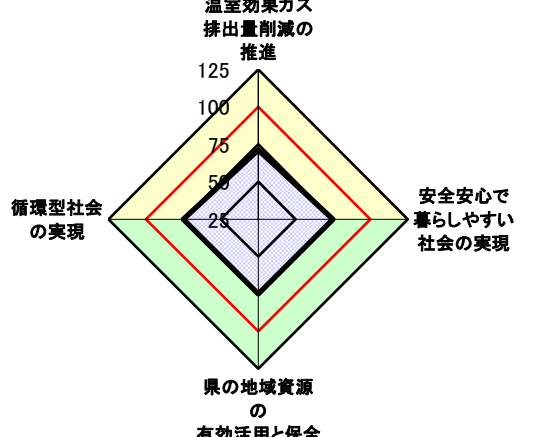
CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	九州フィナンシャルグループ本社ビル	階数		
建設地	熊本県熊本市	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	4地域	年間使用時間		
建物用途	事務所・集会所	評価の段階		
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2018年12月22日	
敷地面積	3,011 m ²	作成者		
建築面積	2,312 m ²	確認日		
延床面積	16,512 m ²	確認者		



重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
九州フィナンシャルグループ本社ビル(仮称)新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								4.2	
Q1 室内環境					0.40		-	3.9	
1 音環境				3.6	0.15	-	-	3.6	
1.1 室内騒音レベル		45db(A)、執務室		4.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.62	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.38	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		執務室、床:タイルカーペット、		5.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		執務室、床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.7	0.35	-	-	3.7	
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		空調は冷暖同時型を採用		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		執務室はダクト接続型の空調、気積の大きいエントランスは輻射空調		4.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.9	0.25	-	-	3.9	
3.1 昼光利用				3.8	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備		中庭の設置		5.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.28	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				5.0	0.26	3.0	-		
4 空気質環境				4.6	0.25	-	-	4.6	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		
1 換気量		30m³/h・人の外気量		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		給排気口は離して設置		4.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		主要室はCO ₂ センサーを設置し濃度測定を行っている。		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		7階に喫煙室		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.3	
1 機能性				3.9	0.40	-	-	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ				3.2	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		執務スペース 12m²/人以上		5.0	0.32	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				4.0	0.32	3.0	-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.37	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高さ:2.95m		5.0	0.32	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		各階リフレッシュコーナーあり、食堂り、喫煙室あり		5.0	0.32	-	-		
3 内装計画		コンセプトの設定、照明計画と内装計画の一体化		5.0	0.37	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上げ(内壁、内床、外壁)		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃控室、SK、ゴミ庫の設置		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30	-	-	4.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		制震構造		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		制震構造		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		フッ素樹脂塗装		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		EP塗装、化粧塩ビシート		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外ダクト:ガルバニウム製		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B種、C種の配管を主に採用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		熱源の2重化、各系統の優先度の区分		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、井水利用、非常用排水槽		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備				4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				4.6	0.30	-	-	4.6
	3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高:4.5m	5.0	0.57	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上0.3未満	4.0	0.43	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	5.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			4.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	各階に設備バルコニー	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	各階は水廻りを集約し近傍にPS	4.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	各階に設備バルコニー	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	各階に設備バルコニー	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	各階に設備バルコニー、予備スペースの確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	各階に設備バルコニー、予備スペースの確保	4.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出			中庭の計画、灌水設備	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			緑地による景観形成、1部分の前面道路からのセットバック	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			地元の溶岩石の使用、防犯カメラの設置、大庇、集会場	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			ダブルスキン	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			自然通風、自然採光、井水利用	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.77	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用				5.0	0.20	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	BEMSの設置	5.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	BEMSの設置	5.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護				3.5	0.20	-	-	3.5
	1.1 節水		節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	井水のカスケード利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.60	-	-	3.8
	2.1 材料使用量の削減			4.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		外構:インターロッキング、内装材:集成材、内装下地:ボード	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮				3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止			4.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		風環境シミュレーション	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	浸透マスの設置	4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ庫の設置	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
	1	騒音		-	-	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			5.0	0.33	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	点灯時間の制御	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		5.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

快適な執務環境と高いBCP性能を確保したオフィスビルである。
井水利用、自然通風、自然採光用等、熊本特有の気候風土を踏まえた環境配慮計画を行った。
地上には緑や水景設備を配置し、潤いある景観に寄与している。

Q1 室内環境

吸音性の高い内装材の採用、中昼センサー連動のブラインド設置、上下温度差や換気風量に配慮した空調・換気計画等により、快適な執務環境の構築に配慮した。

Q2 サービス性能

制振構造の採用、電源の二重化、汚水槽設置等、高いBCP性能確保に配慮した。
ゆとりある階高設定、スラブの高荷重化、各階の設備バルコニー設置等の対応により、将来のレイアウト変更等に柔軟に対応できる計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

東側歩道に面し水景設備を整備、地上・屋上には積極的な緑化を行い、良好な景観形成に寄与する計画としている。また地上部は東西側道路をつなぐピロティ（車路）を設け、視覚的・風環境的な配慮を行った。

LR1 エネルギー

ダブルスキンの採用による熱負荷の低減や高断熱化、高効率機器やLED照明の採用による機器の高効率化、自然通風や自然採光及び井水利用等の自然エネルギー利用等を積極的に行った。

LR2 資源・マテリアル

井水のカスケード利用・節水型器具の採用による水資源保護、リサイクル材の積極的な採用を行った。

LR3 敷地外環境

計画の早期から風環境シミュレーション、自然光シミュレーションを用いた建築計画を行った。

その他

井水を利用したドライミストによる周辺環境への配慮や、地場産木材の積極的な利用を行っている。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 九州フィナンシャルグループ本社ビル(仮称)新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		97
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				107.2	0.40	42.88
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	5.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	5.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.3	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				86.2	0.20	17.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85	0.20	17.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				98.2	0.20	19.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数